

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「人物の心情や人物どうしの関わりをとらえ、印象に残ったことを伝え合おう」 教材名「銀色の裏地」

2 単元の目標

比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（〔知識及び技能〕(1)ク）

登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。（C(1)イ）

人物同士の関係と心情を、描写と表現の工夫から捉える学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ク）	①「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。（C(1)イ）	①人物同士の関係と心情を、描写と表現の工夫から捉える学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

人物同士の関係と心情を、描写と表現の工夫から捉える。この教材では、人物関係と描写の対応図、印象に残ったことの文章を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

人物ごとの行動と受け止め方を並べ、どの描写を使ったのか線で対応させる。作者の経験を未確認で補わない。想定する難しさは、題名から教訓だけを導き、場面の描写を省く。評価では、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えているかを、人物関係と描写の対応図、印象に残ったことの文章と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全5時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。単元の終わりに残す記録を確認、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2	○人物の言動を前後で比べ、相手の受け止め方が表れる描写を選ぶ。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確認める活動）
第3次	3～4 （本時）	○人物の言動を前後で比べ、相手の受け止め方が表れる描写を選ぶ。比喻や繰り返しの箇所も確認、関係と心情について根拠付きで考えを説明する。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	5	○選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確認して聞く。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (3/5)

(1) 本時の目標

登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。(C(1)イ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。 ○「この表現を手掛かりにすると、人物の相手への見方はどう考えられますか」 【めあて】人物同士の関係と心情を、描写と表現の工夫から捉える。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ相手を以前とは違う見方で捉えている。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「この表現を手掛かりにすると、人物の相手への見方はどう考えられますか」 人物の言動を前後で比べ、相手の受け止め方が表れる描写を選ぶ。比喻や繰り返しの箇所も確かめ、関係と心情について根拠付きで考えを説明する。 選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ相手を以前とは違う見方で捉えている。 ・表現の工夫から気持ちの揺れを考えた。	人物ごとの行動と受け止め方を並べ、どの描写を使ったのか線で対応させる。作者の経験を未確認で補わない。 想定する難しさ：題名から教訓だけを導き、場面の描写を省く。 評価では、登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えているかを、人物関係と描写の対応図、印象に残ったことの文章と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 人物関係と描写の対応図、印象に残ったことの文章を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・表現の工夫から気持ちの揺れを考えた。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「この表現を手掛かりにすると、人物の相手への見方はどう考えられますか」。中央は、人物関係と描写の対応図、印象に残ったことの文章に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

